

テクノオーシャン・ネットワーク新・旧理事長よりご挨拶



新理事長

東京大学名誉教授

たかぎ けん
高木 健

2026年3月より Techno-Ocean Network (TON) の新理事長に就任いたしました高木でございます。私は理事として TON の活動に携わってまいりましたが、引き続き満岡会長をお支えしながら、TON の発展に貢献したいと考えております。さて、海洋分野には海運・

造船、港湾、エネルギー・資源、水産など多様な産業があり、これらを海洋環境の保全と調和させながら発展させねばなりません。また、海を賢く利用するためには高度な観測技術がなくてはなりません。TON はこれらに関連する技術の切り口でネットワークを構築してまいりました。最近、従来の技術に加え、AI、ロボット、情報・通信など新しい技術にも対象を広げつつありますが、その動きを益々加速させねばなりません。さらに、新しい技術に対応し、国際的に活躍してくれる人材の確保など多くの課題があります。これらの解決に微力ながら取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご指導とご支援を賜りますよう、何卒よろしく申し上げます。



旧理事長

東京大学名誉教授

うら たまき
浦 環

1999年、私は IEEE/OES (The Institute of Electrical and Electronics Engineering, INC/Oceanic Engineering Society) の日本支部長でした。既に UT (Underwater Technology) という国際シンポジウムを隔年に主催していて、米国の Joe Vadus 氏や Bob Wernli 氏と太い絆を結んでいました。9月、Seattle の OCEANS 国際会議で神戸市の中西理香子さんとお会いしました。OCEANS を神戸で開催し、それもテクノオーシャンと共同開催という形で実現したいとのことでした。既に昵懇であった MTS (Marine Technology Society) の中原裕幸さんや酒匂敏次先生らと情勢分析をし、親日家の Joe に相談し、AdCom (理事会) に頭出しをしました。2000年、Providence での AdCom で、2004年の企画のプレゼンがおこなわれ、ノルウェー、イギリス、ドイツを抑えて、初めてアジアで開催されることが決まりま

した。議長主催の Dinner のときに、ドイツの代表団から、「神戸は震災があり、地震の心配はもうないのか」と聞かれたので、「1000年はないでしょう。ドイツは最近、地震がないようだから、危ないかもよ」と言い返しました。皆、笑っていました。写真は、2004年テクノオーシャンの開会式のテープカットで、IEEE/OES 議長の Tom Winner 氏、Joe、私です。それから20余年、2025年のテクノオーシャンを区切りに理事長職を辞することになりました。皆様、これまでいろいろと有り難うございました。AI 時代に TON のあらたな発展を期待いたします。



Techno-Ocean2004 開会式テープカットの様子